

(10) 東中筋小学校

学 校 長 門田 典弘
校内研究代表者 細木 葵絵

1. 研究主題

『伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成』

～見方・考え方を働かせ、主体的な学びにつなげる授業づくり（算数科を通して）～

2. 研究主題設定の理由

本校は長年、研究主題を「伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成」とし、研究に取り組んできた。それまでは道徳科を中心としていたが、昨年度から新しく、サブテーマを「見方、考え方を働かせ、主体的な学びにつなげる授業づくり(算数科を通して)」と設定し、研究を進めている。

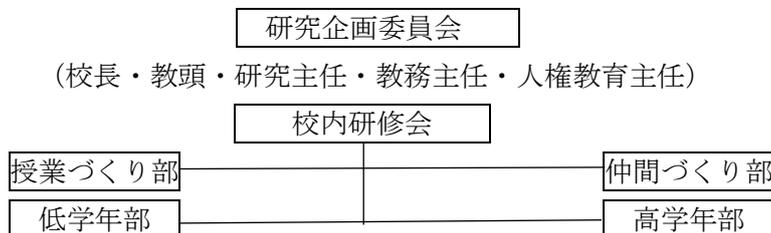
設定の理由は、学力の土台となる、お互いに認め合い、高め合う学習集団の育成を基礎としたいこと、新学習指導要領の趣旨でもある、見方、考え方を育む資質、能力ベースの授業づくりを目指したいこと、また、昨年度から複式学級が新設されたことにより、複式授業の研究から、より主体的な学びに高めていきたいと考えたからである。

その成果として、本校の授業スタンダードの見直しと改善を行い、学校全体で、学習リーダーを中心に児童の対話を大切にしたい授業づくりを進めることをしてきた。一方、昨年度末の高知県学力定着状況調査や教研式標準学力検査（CRT）において、全国平均+3 ポイント以上を到達目標としていたが、全学年達成とはならない結果となった。そのため、検証をもとにした更なる授業改善と、学力向上に向けた取り組みが必要である。更には、GIGA スクール構想の一環である、より効果的な ICT 活用の研究も繰り越した課題となっている。

また、今年度より中学校統合に伴う、中村西中学校区 5 校による合同研究も計画されており、小中 9 年間の学びを見通した研究も進めていくことになる。

以上の理由から、昨年度までの歩みを土台とし、本年度も研修主題を継続し、児童同士で、しっかりと学び合いができるような授業を目指し、授業スタンダードの徹底を図る。あわせて、とも学びの充実を図るための研究を進めていき、児童にとって、より深い学びになる授業を目指す。

3. 研究組織



4. 研究の進め方と方法

1. 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善

- ・ 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する授業づくり
- ・ ひがなか授業スタンダードの見直しと発展

- ・算数科において学びを変え、つなげ、高める授業づくり
- 2. 複式授業スタンダードの確立と実践
 - ・リーダー学習を取り入れ、主体的に学びに向かう児童の育成
 - ・授業研究における協議の視点の明確化、指導過程の工夫
- 3. ICT の効果的活用
 - ・タブレット、電子黒板等の効果的な活用
- 4. 家庭学習の習慣化と、質の向上 授業と家庭学習のサイクル化
 - ・基礎学（帯タイム）の時間、加力指導の活用
 - ・ノート指導、学びの見えるノート作り
 - ・自主学の見組、学びに向かう姿勢・意欲
 - ・家庭との連携による学習課題、生活課題の克服

5. 具体的な取組

1. 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の取組

- ・校内研修・・・指導案検討(ブロック)→研究授業→事後研究の流れで授業研究を実施。
事後研修では、授業での「とも学び」に重きを置いて、「成果」「課題」と「改善点」等について、協議をする。

<とも学びの視点>

子ども①一人一人が自分の考えを持って話し合い活動ができていたか。

②とも学びは、考えが深まる内容になっていたか。

教師 ①問いや見通しなどで、子どもの興味、関心を引き出す働きかけができていたか。

②とも学びで、よりよい考えに気付けるような働きかけができていたか。

- ・授業力チェックシートの活用・・・研究授業の時に、児童、参観者、授業者それぞれが授業力チェックシートを書き、授業を振り返る。研究主任及び授業者がチェックシートを集計・分析し、その後の授業に活かす。
- ・授業づくり講座・・・積極的に授業づくり講座に参加し、その学びをミニレポートにまとめ、校内研修で共有する。
- ・講師招聘・・・指導案検討、研究授業の際に講師招聘をする。今年度の講師招聘は、西部教育事務所4回（研究授業事後研修、講話を含む）、高知大学附属小学校松山先生1回（複式模範授業及び講話）

2. ひがなか授業スタンダードの見直しと発展

- ・授業グッズを全学年そろえ、どの学年も同じ流れで進められるようにした。また、学習セットを個人持ちし、いつでも同じ学習用具が使えるようにする。
- ・指導案形式の工夫・・・単元構想、単元計画を立てる中で、単元ゴールの子どもの姿から、そのためにどう指導し、どんな力をつけていくのか照らし合わせて書き込む。併せて、本時で働かせたい数学の見方・考え方を明らかにしておく。研究授業の協議の際に出てきた改善案を指導案に加筆する。

3. ICT の効果的活用

- ・GIGA スクール構想に合わせて、一人一台のタブレットを活用し、授業の中での効果的な活用方法を研究する。
- ・校内研修の中に、短いタブレット研修を入れ、定期的に学習する。

4、家庭との連携、学力定着の取組

- ・ひがなかノートの活用・・・学校で統一した連絡帳（ひがなかノート）を使い、共通した項目について、学校生活を振り返るとともに、家庭との連携を図る。今日の振り返り、明日の時間割、宿題、本読みカード、忘れ物・連絡事項の確認等。
- ・自学ノートの取組・・・縦割り班でのノートの見せ合いや職員室前にノートをコピーしたものを毎週掲示する。友だちのノートのよいところを見つけて、子ども達が自由に花丸カードに書く。友だちの自学ノートの工夫や頑張りを認める機会になるとともに、自分の自学ノートの質の向上につなげる。
- ・ぐるぐるノートの取組・・・1冊のノートをクラスで共有する。友達同士で学び合えること、学びの質の向上を目指して取り組む。
- ・ノート指導・・・基本的なノートの書き方を統一し、学年が上がっても戸惑わないようにする。友達の考えや、自分の気づきを書き入れるなど自分の学びが深まるノート、後で読み返し、振り返ることで後の学びにつながるノート作りを目指す。
- ・帯タイム（基礎学タイム）や、放課後加力指導の活用・・・主として算数や国語の基礎、反復、応用問題を各種シート、ドリル等を使いながら行う。地域の方の力を借りる。

6. 成果と課題(改善策)

- とも学びの充実の視点をつくったことで、何をすればよいか明確になった。
- 授業改善を柱におき、次の授業研につながる校内研ができた。
- 研究授業を終え、今後の取組をその場で考えることで、共通確認ができた。
- 授業改善を図り、課題解決に向かう力を向上させる取り組みについては、児童アンケート
「算数の問題を考えるとき、これまでに学習したことを使って考えようと思いましたか。」
「算数の学習で、自分の考えを发表或し、考えた理由を書いたりすることができましたか。」
「算数の学習で、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができましたか。」
「算数の学習で、学習のまとめを考えたり、書いたりすることで、分かったことやできるようになったこと、さらに考えてみたいことなどを振り返ることができましたか。」
において、肯定的評価90%以上で、達成できた。今後も、更にこれらの視点を意識した授業改善を行う。
- 問題解決で終わってしまっていて、本当に自分のものになっているか、それができるようになっているかは、練習時間の確保が必要。
- 少人数でのクロムブックの活用法や学年担任によって、差があるので、段階を追って指導できるよう、系統性を考えて、計画を立て、実践をしていく必要がある。
- 複式学級の学習指導の研究を継続する。
- ICT活用において、各学年の効果のあった実践を校内研の際に共有を行い、記録として残していってほしい。
- 保護者アンケートで「ひがなかノートを毎日チェックしている」の検証は69.4%で未達成であったため、その目的を示しながら継続的に啓発していき、家庭との連携を強化する必要がある。